

堀邊 豊
HORIBE Yutaka
本誌編集委員



「失われた20年」?

本年7月から本誌編集委員を担当させていただいております堀邊 豊と申します。宜しくお願いいたします。

「失われた20年」という言葉を耳にいたします。トータルとしての成長は一時的に停滞しているのかもしれませんが、未来に向けて着々と整備されているものもあり、効能が高まっている分野と、価値が低下していく分野の入れ替えが行われ、今衰退している分野も、もうそろそろ底をうち成長していくでしょう。

ローカルな話題で恐縮ですが、この20年で整ったと感じられるものは、横浜の環状網です。なかでも本年全面開通する国道一号線の原宿立体交差部の経済効果は大きいでしょう。この国道一号線と横浜環状4号交差点は、神奈川県内渋滞ワースト1でした。渋滞による経済損失は年間100億円ということです。20年余りに亘る、関係者のご尽力に感謝いたします。

私は情報通信分野の土木設備に関わる仕事に携わってきました。情報通信分野もこの20年で失われた感じはいたしません。特に、携帯電話やインターネットは大きく伸び、これからも更に発展・高度化することでしょう。身近な例として、優れていると思われるインターネット・ホームページに「横浜市立図書館ホームページ」(*1)があります。

「読みたい本」

我が家の引越し(十数回)のたびごと、書籍の梱包とトラックへの積み込み・積み出し、収納は苦行そのものでした。家族にずいぶん迷惑をかけたと反省しています。このホームページのおかげで、居ながらにして幾多の新刊書を知る事がで

き、読みたい本の予約もでき、何番目の予約者であるかも分かり、用意ができると自動配信でメールを届けてくれます。借用期間延長もできます。

また、そのホームページの「予約の多い本50」と大阪市の「予約の多い本」(*2)(本年7月から30冊を紹介しています)を比べると興味深いです。両市民の関心について分析した興味深い文化論が書けるかもしれません。今一番予約の多い本は横浜で3,000人ぐらい待っておられ、100冊余り用意されています。ゆっくり待てる本は、メールが来るのを楽しみに待ちます。本当にいい本は、読破後購入し再読します。「ビジョナリーカンパニー」はその一つです。この本から、老舗の文化に関心が湧き種々調べました。我が国は世界一の老舗大国であることが分かり、大いに勇気付けられた次第です。

どうしても早く読みたい本は購入しエキスを転記します。「予約の多い本50」のリストの前書きに、「下記の本をお持ちでご不要になられた方は、是非ご寄贈下さい。ご寄贈いただく場合はお近くの図書館の寄贈担当までお持ち下さい」とあります。この要請に応え、寄贈します。そうすると何か、いい事ができた心地にひたる事ができ、自己満足できます。

なかなか、再読したくて寄贈できない本もあります。小池龍之介さんの本も、寄贈できず、まだ持っています。「予約の多い本50」には入っていませんが、横浜市で19冊用意されており、待っている人は10人です。競争至上成果主義の中で、より多様な価値観で老若男女が共に支えあい生きていくための方策が述べられています。就職環境が最悪状況下、若者が希望をもって生きていける多様な文化を、再構築していくための重要なヒントがありそうです。報謝の念を持ち、及ぶ範囲で具現化すべき使命・創造価値・態度価値について示唆しているのでしょう。

(*1) <http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/>

(*2) <http://www.oml.city.osaka.jp/index.html>